

- 尼崎産業ツーリズム・ツアークリエイター講座 -
尼崎港区に広がる工業地帯を観光地に！？
「産業ツーリズム」でドラマティックな「旅」の創設を

・・・ 尼崎港区フィールドワーク&ディスカッション参加レポート ・・・

平成22年2月19日(金)～20日(土)に、尼崎港湾協会主催の「尼崎産業ツーリズム・ツアークリエイター講座」が開催されました。1日目は神戸夙川学院大学での座学、2日目に実際に尼崎港区を巡るフィールドワークと2日間の知見で得たメンバーの発表会という2日間の講座ですが、私どもは20日(土)のフィールドワークに参加しました。

尼崎市の南部地域一帯は、古くから阪神間の一大工業地帯であり、現在でも鉄鋼、石油化学、窯業やエネルギー産業関係の大小の工場が稼働しています。かつて1970年代の高度成長期には公害問題も取り沙汰され、あまり環境が良くないネガティブなイメージが浸透していました。

しかし、その後の行政や産業関係者の努力と技術革新で、環境は劇的に改善しており、現在も臨海部の緑化プロジェクトや、工場地帯に縦横に流れる運河を憩いの場として整備する「21世紀の尼崎運河再生プロジェクト」等が推進されています。

そこで、尼崎市と尼崎港区の産業関係者で構成する尼崎港湾協会が、このような工業地域の再開発、再生プロジェクトと最先端技術の宝庫である工場地域を、新しい観光形態として注目されている「産業観光ツーリズム」の観光資源として捉え、尼崎産業の魅力を「旅」として創り出そうと、地元の神戸夙川学院大学観光文化部の小野田金司教授にご協力をいただき、地域関係者と神戸夙川学院大学観光文化部の学生を対象に、産業ツーリズムの現状や事例を学び、また参加者が地域の産業観光ポイントをフィールドワークして、新しい尼崎の産業観光を創るツアークリエイター人材の育成を目指して企画されたものです。

以下、その参加レポートです。

2月20日(土)は、全員8:30に尼崎市
中小企業センターに集合。

スタッフの尼崎市都市整備部河港課の方々に
説明や注意を受け、小野田教授から「昨日の
講義を思い出して、各自が心にHOOKした光景
をどんどん写真に撮りましょう」と激励を受
けてから、自転車に乗ってスタートです。

メンバーは、地域企業の方々と大学生、そして尼崎市や
国土交通省の公務員で、3つのチームに分かれて、各チ
ームのテーマに沿ったコースでフィールドワークに出発
です。



私のCチームは、なぜか「工場見学」
のメニューが無く、尼崎市が運河地域
に整備したサイクリングコース「尼っ
子リンリン・ロード」をひたすら走り、
「運河地域を中心に、何か産業観光に
HOOKするネタを見つけましょう」とい
うコースプラン。

引率の尼崎市河港課の方の「ノープ
ランで行きますよぉ」という掛け声で、
まずは『尼崎スポーツの森』目指して
出発です。

走り出してすぐに、観光スポット発見。

尼崎市は「工場 = 近代的な町」のイメージが強いですが、
実は古くからの城下町であり、阪神尼崎駅の南西に仏閣が
多数集まった落ち着いた佇まいの「寺町」という地域があり
ます。

メンバー間で、「工場じゃないけど、こういう場所も紹介し
ていきたいね～」などと言いながらも、先が長いので必死
に自転車を漕ぎます。



「尼っ子リンリン・ロード」のスタート地点である「蓬川（よもがわ）」に到着。

この地点から南側は、古くから運河として利用されていたエリアで、ここから運河沿いにサイクリングロードが延びています。



各自、サイクリングロードを走りながら、気づいたポイントを写真撮影。このあたりは、外観がきれいで風力発電など環境に配慮された工場が多い地帯です。



「景色は悪くないけど、逆にあんまり工場っぽくないですね」とは、チームの学生さんのお言葉。でも、サイクリングロードとしては走りやすく、気持ちの良いエリアです。

サイクリングロードは、途中で東の方に折れて、いよいよ本格的な運河地帯に入ります。

とたんに、また面白そうなスポットが・・・



蓬川から枝分かれした

「北堀運河」には、『21世紀の尼崎運河再生プロジェクト』の一環として取り組まれている運河の水質改善のための実験施設があります。

運河から汲み上げた海水に酸素を送り込み、海洋生物を利用して水質を浄化させるしくみになっているとのこと。

右は運河の分岐点に立つ「出会い橋」。

北堀運河の途中に、南から中堀運河が合流するポイントに立っています。見た目は巨大なジャングルジムですが、元々は、ガスタンクの支柱構造物だったそうで、運河地区の遊歩道で随一のランドマークとなっています。



中堀運河の中に設けられている親水スポットです。

2009年に行われた、尼崎運河博覧会「うんぱく」では、ここからボートに乗って運河探検ツアーが行われていました。



「尼っ子リンリン・ロード」を、あちこち寄り道しながら走破して、到着したのが尼崎南部埋め立て地の最南端にある「尼崎スポーツの森公園」。

屋内外のプール、スケートリンク、テニスコート等の各種スポーツ施設とともに、尼崎南部地域を百年かけて再生するという、兵庫県の「21世紀の森構想」の中心でもあり、

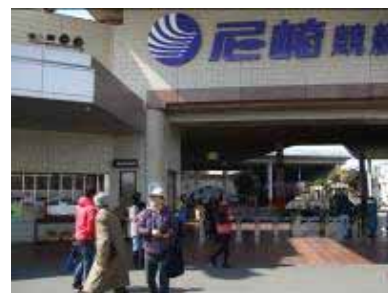


公園の南部には広大な植樹

帯が造られています。



一通り、予定のコースは走破したのですが、なにかこう、観光資源としてインパクトのあるポイントが見つからない…。そこでチーム一同で作戦会議し、「この際、ここも行ってみよう！」となったのが、尼崎競艇場。



「公営ギャンブル場というのもどうだかな」と思いつつも、中に入ってみれば凄くきれいでオシャレな雰囲気。学生の皆さんも、思ったより健全な雰囲気？と、レースの迫りに驚きつつ「私達若者にとっては、ここは絶対に面白いです！」と大満足のご様子。我がチーム一押しの観光スポットに認定となりました。

寄り道したので、帰りはルートを外れてちょっと近道。最寄りの「三和商店街」を通して、まっすぐ尼崎市中小企業センターに帰ろうとしたら…「えっ！安い！」。ちょうど昼食タイムだし〜と、各自が商店街内のお総菜屋さんで食べたいものを買って、青空の下でおいしくいただきました。商店街も、チームの観光スポット候補に認定です。





尼崎市中小企業センターに戻って、午後からは、まずはニューツーリズムのツアー商品を販売しているクラブツーリズム㈱の霜田執行役員から、ニューツーリズムの現状や同社の取り組み事例について講義をいただきました。ニッチなプランでも、クラブシステムで「同好の士」が一緒に楽しめる商品作りの事例や、顧客との結びつきを深めるためのネットの活用等について、興味深いお話をいただきました。



当講座の最後のプログラムである「尼崎の魅力発表会」のためのグループワークです。昨日と今日で学び、直接見てきた知見を総動員して、チーム毎に自分たちのコースでの「魅力」をどうプレゼンテーションするか、学生、社会人とも同じ目線で激論？を戦わせながら、発表資料を作り上げていきます。

各チームの発表会。

我がチームは、作戦のとおり、運河だけでなく競艇場や地元商店街も視野に入れた町歩きの魅力を発表しましたが、小野田先生からもそれなりの評価をいただけ、ほっと一息。

他のチームもいろいろな視点での尼崎の魅力提案があり、尼崎市都市整備局 衣笠局長から「この取り組みを是非今後も続けていき、尼崎港区の魅力発信に繋げていきたい」とのお言葉を得て、閉講となりました。



長いようで短い、たいへん中身の濃い一日を過ごさせていただきました。

閉講後の懇親会は、大いに盛り上がりました！



神戸運輸監理部 総務企画部企画課長補佐
今村 憲司